

【都市と美術研究所】2026年3月9日 発表要旨

個人コレクションから生まれた美術館
—ヨックモックミュージアムと企業・都市・空間

From Private Collection to Public Museum:

The Yoku Moku Museum within the Context of Company, Urban Environment, and
Architectural Space

町田つかさ（ヨックモックミュージアム 主任学芸員）

Tsukasa Machida /Chief Curator, Yoku Moku Museum

株式会社ヨックモックは、1969年の創業以来、洋菓子の製造・販売を通じて人々に豊かな時間を届けてきた。創業者である藤縄則一は、新たな社屋建設のための土地を探すなかで東京都港区青山の地と出会い、その落ち着いた街並みと文化的な気風に魅せられ、1978年に本社社屋を建設した。これがヨックモックと青山を結ぶ関係の始まりである。同年に開店した直営店と喫茶室は、コーポレートカラーである青のタイルを基調とした空間として親しまれ、地域の景観の一部として歩みを重ねてきた。現在も青山は、ヨックモックにとって創業の理念を体現する重要な拠点であり続けている。

ヨックモックミュージアムは、本店にほど近い青山の住宅地に2020年に開館した。当館はヨックモック創業者の子息であり、ヨックモックホールディングス前会長の藤縄利康の個人コレクションを基盤とするプライベート・ミュージアムであり、企業美術館とは異なる成り立ちをもつ。その中核をなすのは、スペインの画家パブロ・ピカソが1940年代後半以降に制作したセラミック作品である。洋菓子とピカソという一見結びつきの見えにくい二つの存在を、創造性や手仕事への敬意という創業の精神から読み解きつつ、企業名を冠しながら独立した文化的役割を担う美術館としての当館の使命を、青山という地域との関係や来館者とのつながりを踏まえて考察し、今後の展望を紹介する。

プロフィール：町田つかさ

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。和泉市久保惣記念美術館学芸員を経て、2025年より現職。専門はパブロ・ピカソ、特に第二次世界大戦以降の制作とその受容について。担当展覧会に、「ピカソと日本美術—線描の魅カー」（和泉市久保惣記念美術館、2017年）、「ピカソ いのちの賛歌」（ヨックモックミュージアム、2023年）、「ピカソ・ミロ・バルセロのセラミック カタルーニャへの愛」（同館、2026年）。論文に「ピカソ・日本・バルセロナ」『ピカソと人類の美術』（三元社、2020年）、「語るピカソ、語られるピカソ」（『作家ピカソ』展カタログ、Instituto Cervantes Tokyo、2020年）など。第21回鹿島美術財団賞受賞（2014年）。